

# 総務教育常任委員会資料

(平成22年9月15日)

## 【 件 名 】

- 1 第2回鳥取西高等学校整備のあり方検討会の結果概要について  
(教育環境課・文化財課) …… 1
- 2 一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について(教育環境課) …… 3
- 3 平成21年度問題行動(暴力行為・いじめ)等の状況について  
(小中学校課・高等学校課) …… 4
- 4 県立高等特別支援学校設置準備委員会の意見のまとめについて  
(特別支援教育課) …… 7
- 5 平成22年度全国高等学校総合体育大会の結果について(スポーツ健康教育課) … 10
- 6 平成22年度全国中学校体育大会の結果について(スポーツ健康教育課) …… 11
- 7 第65回国民体育大会中国ブロック大会の結果について(スポーツ健康教育課) … 12

教 育 委 員 会

## 第2回鳥取西高等学校整備のあり方検討会の結果概要

教育環境課・文化財課  
平成22年9月15日

第2回鳥取西高等学校整備のあり方検討会を下記のとおり開催した。

### 1 日時等

日時：平成22年9月9日（木）午後1時30分～3時30分まで

場所：県庁 第2庁舎4階 第34会議室

出席者：検討会委員10名

オブザーバー 文化庁文化財部記念物課 佐藤主任文化財調査官

### 2 概要

- ・文化庁との協議の経緯等について説明し、オブザーバーとして出席いただいた文化庁主任文化財調査官からも直接説明をいただいた。
- ・鳥取市史跡整備計画の概要、及び今後の鳥取西高整備の大まかな方向性について説明し、意見交換を行った。

### 3 主な意見

#### 【文化庁主任文化財調査官からのこれまでの経緯等の説明】

- 史跡に直接関わりのないものについては、文化財の保存と活用という観点から、史跡外に移転してもらうというのが基本方針。
- H20年9月に鳥取県から現状変更許可申請が提出されたが、国の文化審議会の第3専門調査会が現地視察をした際に、次の検討事項が提起された。これらを踏まえて、許可を判断する資料が乏しいことから、一度受け付けた申請書の受理を取り消し、第2グラウンドの調査を行った上で、再度申請書を提出するよう県に連絡するとともに、申請書を返却。
  - ①現在の第2グラウンドには、幕末の絵図によると柵蔵があり、発掘調査が必要で、詳細が不明なままの段階で、アリーナ建設を進めるのはどうか。
  - ②石垣をまたいで計画されている正面通路についても構造を検討する必要がある。
  - ③改築となっているのに、新築同様のような整備を行うのはいかがなものか、本来であれば史跡外に移転するべきである。
- 文化庁は、本来、校舎を移転することが望ましいと考えているが、移転先の問題と地元の状況を考慮し、当面共存できないか検討してきた。未来永劫、学校が存置するのではなく、当面史跡指定地外に校舎の一部を移転させて、史跡指定地内の施設占有面積を縮小してはどうかと提案した。
- 県は第2グラウンドにアリーナを建設し、史跡指定地（三ノ丸）内の施設占有面積を縮小する現行案を計画したが、第2グラウンドの発掘調査の結果、現在は未指定地であるが、文化財としての価値が高まり、指定地と同様の扱いが必要であると判断した。そのため、アリーナ建設はできず、計画の見直しが必要であり、許可できないと判断した。

- 早い段階で、第2グラウンドの発掘調査を実施し、その結果によって計画の可否、あるいは変更の必要性の議論をすべきであった。結果的に価値判断が遅れてしまった。
- 責任という点は、県も国も一生懸命やってきたと思っているので理解してほしい。許可の審査基準は、史跡の状況により異なるので、一概に言えない。いろいろな案を検討するのがよいのではないか。

#### 【学識経験者】

- 文化財の立場からすると移転を第一に検討すべきである。教育委員会が過去にそうした検討を行ったのであれば示してほしい。

#### 【学校関係者】

- 鳥取市の「史跡保存管理計画」との整合性を考慮すべきは、H19年に策定公表されている「史跡保存整備実施計画(H19)」ではないか。
- 今後の方向性について、移転と耐震改修の二者択一ではなく、現行案の修正も選択肢に入れてほしい。
- 文化財ということに多くの議論を費やしているが、保護者の立場として高校に通う子ども達の安全な教育環境は、文化財と同じぐらい重要な観点なので、その点も十分議論してほしい。

#### 【鳥取市】

- 長期的に移転を含めて検討してもらおうというのが史跡保存整備基本計画の考え方。史跡保存整備実施計画もそれに基づいて策定されている。
- 鳥取市としては、学校と史跡整備の共存を方針としている。

#### 4 次回の予定

- ・過去の移転の検討状況
- ・より幅広い選択肢を踏まえた整備の方向性

#### 5 検討会委員(11名)

##### ▼学識経験者

- 池本 百代【鳥取女性中央会幹事、まちづくりレディース鳥取会長】
- 岡田 昭明【鳥取大学名誉教授、県文化財保護審議会会長】
- 坂出 徹【鳥取商工会議所専務理事】(欠席)
- 錦織 勤【鳥取大学教授、県文化保護審議会部会長】
- 濱田由紀子【鳥取県弁護士会副会長】
- 東樋口 護【鳥取環境大学副学長】
- 道上 正規【(財)とっとり地域連携・総合研究センター理事長】(座長)

##### ▼学校関係者

- 青木 節也【鳥取西高等学校校長】
- 池内 勝彦【鳥取西高等学校PTA会長、同窓会副会長】
- 松下栄一郎【鳥取西高等学校同窓会副会長】

##### ▼鳥取市

- 楮原 伸一【鳥取市教育委員会事務局次長】(林 市文化財課長代理出席)

一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について

平成22年9月15日

教 育 環 境 課

工事名	県立米子工業高等学校改築工事（建築E工区）
工 事 場 所	米子市博労町四丁目
契約の相手方	株式会社竹田工務店
契 約 金 額	151,620,000円 (予定価格176,731,800円)
工 期	平成22年8月18日～ 平成23年1月11日
契 約 年 月 日	平成22年8月17日
摘 要	

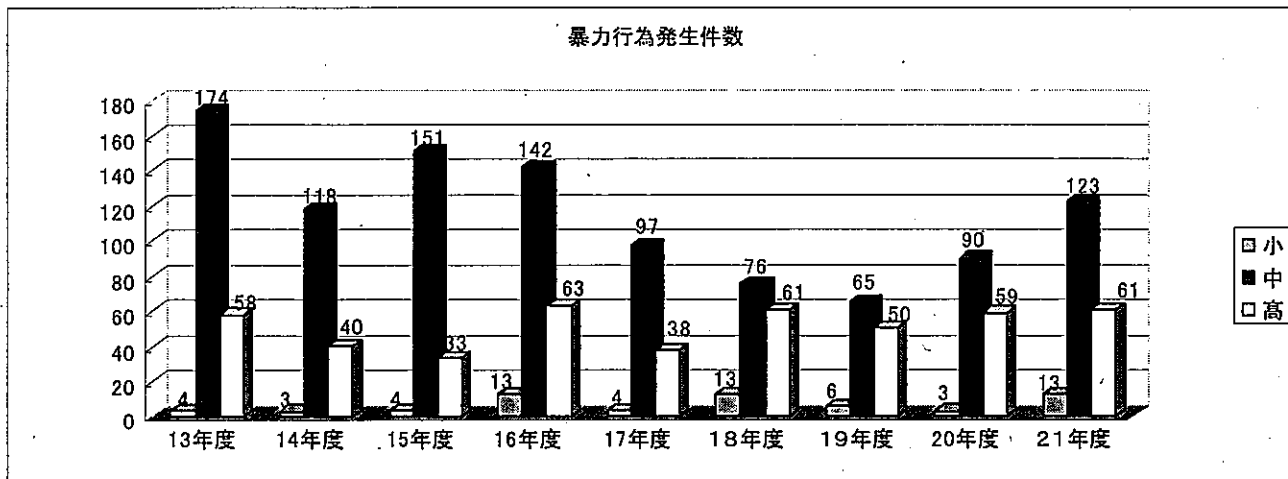
平成21年度問題行動(暴力行為・いじめ)等の状況について

平成22年9月15日  
小中学校課  
高等学校課

1 集計結果

別紙のとおり(全国の数値については10月以降発表の予定)

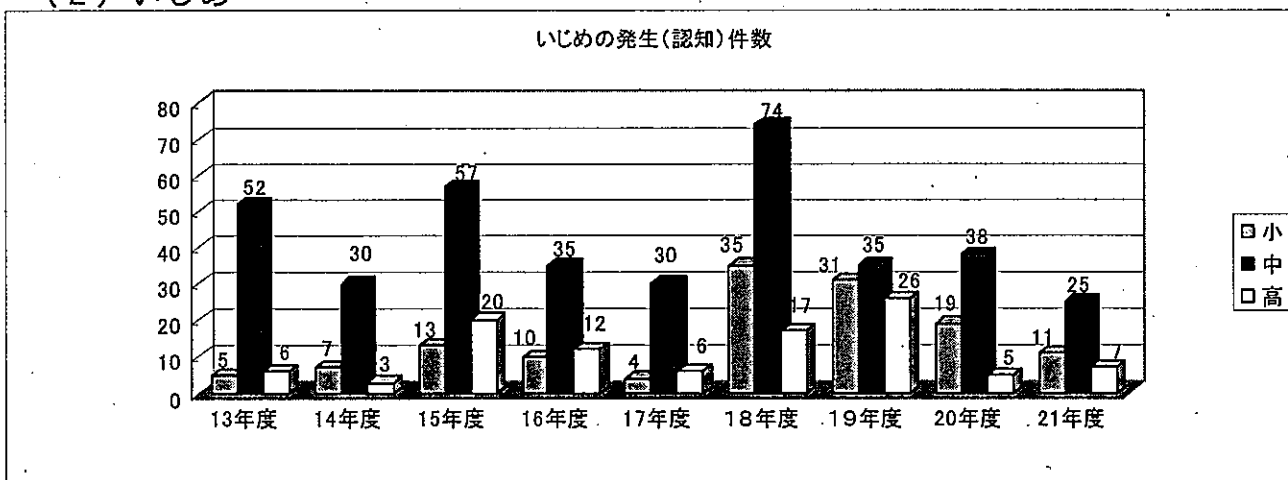
(1) 暴力行為



○暴力行為の発生件数は、小・中・高等学校のいずれも増加

- ・小学校の暴力行為は、「対教師暴力」「生徒間暴力」「対人暴力」「器物損壊」のいずれの項目でも増加、特に「器物損壊」は前年度0件が、本年度6件と増加が目立つ
- ・中学校の暴力行為は、「対教師暴力」「器物損壊」が減少、「対人暴力」が増加、「生徒間暴力」は前年度に比べ+37件と大幅増加
- ・高等学校の暴力行為は、「生徒間暴力」が減少、「対教師暴力」「対人暴力」「器物破損」で増加

(2) いじめ



※国の調査方法変更のため、H17年度までは発生件数、H18年度以降認知件数

○いじめの認知件数は、小学校と中学校で減少し、高等学校で増加

- ・小学校におけるいじめの態様は、「冷やかし・からかい」が最も多いが、昨年と比べて減少
- ・中学校におけるいじめの態様は、「冷やかし・からかい」が最も多く、次いで「叩かれる・蹴られる」が多いものの、昨年と比べて減少
- ・高等学校におけるいじめの態様は、「冷やかし・からかい」が最も多く、

昨年と比べて増加

## 2 分析

- ここ数年、中学校における暴力行為が増加傾向にあるが、特に「生徒間暴力」については、生徒間でトラブルが発生した際、コミュニケーションをうまくとれない状態で、カッとなるとすぐに暴力をふるってしまう生徒の増加が原因として考えられる。
- いじめの件数は全体的に減少傾向であり、ストレスをもたらす要因の軽減をねらいとするストレスマネジメントの取組や、人間関係づくりを重視した学級経営や学年経営、更には学校全体の取組が効を奏しているものと予想される。

## 3 問題行動の防止等に向けた現在の取組について

### (1) 学校内での指導等

- 発達障がいへの理解と、特別支援教育の視点を持った対応
  - ・鳥取県自閉症・発達障がい支援センター「エール」の自閉症・発達障がい支援員やLD等専門員などの指導による研修を通じた発達障がいに関する理解及び特別な支援を要する生徒への関わり方についての共通理解の促進
- 教育相談の充実等
  - ・小中連携を図りながら問題行動等への対応の在り方についての全職員の共通理解を促進するとともに、当該児童生徒の状況に応じた指導・支援体制の構築
  - ・スクールカウンセラー、「子どもと親の相談員」、スクールソーシャルワーカー、教育相談担当教員等による支援を積極的に活用した教育相談活動全般の充実
- 豊かな人間関係、社会性の育成
  - ・学級活動や児童会・生徒会活動等を通じた仲間づくりや集団活動及び様々な体験活動の推進
  - ・「非行防止教室」や「薬物乱用防止教室」の開催、道徳の時間を中心とした指導の充実による規範意識の醸成
  - ・情報モラルの指導をとおしてケータイ・インターネットによるいじめ問題の抑止
- 生徒指導体制の再構築
  - ・問題行動等の対応に関する基準の検証と、明確化された指導方針に基づく、小中連携を中心にしたねばり強い指導の継続

### (2) 家庭や地域、関係機関との連携

- 学校・家庭・地域の連携推進
  - ・社会のルールとマナーを守るための「心とからだいきいきキャンペーン」「高校生マナーアップさわやか運動」の実施
- 関係団体との連携の強化
  - ・青少年育成協議会等の関係団体や地域と連携した街頭指導・夜間パトロール等による非行防止活動の展開
  - ・長期化する問題や困難な事例に対する、少年サポートセンター、児童相談所等の関係機関との連携の推進
  - ・小・中・高等学校間における、各学校の取組に対する意見交換会や個人情報に配慮した上での連携

## 問題行動(暴力行為・いじめ)等の状況に関する集計結果

小中学校課  
高等学校課  
特別支援教育課

## 1 暴力行為

## (1) 鳥取県の暴力行為の発生件数の推移

※H18年度より全国の発生件数/千人は国立、私立を含む値

(件)

暴力行為	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	前年比増減	
鳥取県	小	4	3	4	13	4	13	6	3	13	10
	中	174	118	151	142	97	76	65	90	123	33
	高	58	40	33	63	38	61	50	59	61	2
	計	236	161	188	218	139	150	121	152	197	45
	発生件数/千人	3.1	2.2	2.6	3.1	2.0	2.2	1.9	2.3		
全国公立のみ	小	1,630	1,393	1,777	2,100	2,176	3,755	5,095	6,367		
	中	29,388	26,295	27,414	25,984	25,796	29,476	35,649	41,509	未公表	
	高	7,213	6,077	6,201	5,938	6,046	6,715	7,290	7,453		
	計	38,231	33,765	35,392	34,022	34,018	39,946	48,034	55,329		
	発生件数/千人	2.8	2.5	2.7	2.6	2.6	3.1	3.7	4.2		

## (2) 暴力行為の区分

(件)

区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	前年比増減
対教師暴力	小	2	0	0	4	0	3	0	2	2
	中	32	21	20	29	23	15	5	13	11
	高	6	2	2	8	5	6	5	4	8
	計	40	23	22	41	28	24	10	17	21
生徒間暴力	小	2	2	1	5	3	2	1	3	4
	中	73	53	56	77	55	45	37	41	78
	高	23	28	17	21	22	41	28	33	26
	計	98	83	74	103	80	88	66	77	108
対人暴力	小	0	0	0	0	1	2	1	0	1
	中	13	4	8	7	4	8	4	4	13
	高	2	1	3	6	0	1	1	0	3
	計	15	5	11	13	5	11	6	4	17
器物損壊	小	0	1	3	4	0	6	4	0	6
	中	56	40	67	29	15	13	19	32	21
	高	27	9	11	28	11	13	16	22	24
	計	83	50	81	61	26	32	39	54	51

(注) ・対教師暴力(教師の胸ぐらをつかむ、ケガをさせるなどの行為)  
 ・生徒間暴力(生徒同士がけんかし一方がケガを負う、一方的に暴行を加えるなどの行為)  
 ・対人暴力(通りかかった他校の生徒や通行人等面識のない相手に暴行を加えたなどの行為)  
 ・器物損壊(修繕を要する落書き、施設の破損などの行為)

## 2 いじめ

## (1) 鳥取県のいじめの認知件数の推移

※H18年度より全国の発生件数/千人は国立、私立を含む値

(件)

いじめ	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	前年比増減
鳥取県	小	5	7	13	10	4	35	31	19	11
	中	52	30	57	35	30	74	35	38	25
	高	6	3	20	12	6	17	26	5	7
	特	0	0	0	0	0	0	3	2	10
	計	63	40	90	57	40	126	95	64	53
発生件数/千人	0.8	0.5	1.3	0.8	0.6	1.8	1.8	1.0		
全国公立のみ	小	6,206	5,659	6,051	5,551	5,087	60,380	48,526	40,545	
	中	16,635	14,562	15,159	13,915	12,794	49,443	42,122	35,757	未公表
	高	2,119	1,906	2,070	2,121	2,191	9,166	6,388	5,043	
	特	77	78	71	84	71	371	334	307	
	計	25,037	22,205	23,351	21,671	20,143	119,360	97,370	81,652	
発生件数/千人	1.8	1.6	1.7	1.6	1.5	8.7	7.1	6.0		

(注) H17年度までは発生件数、H18以降は認知件数

## (2) いじめの態様

(件)

区分	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	計
冷やかしかからかい、悪口や脅し文句等	9	12	6	6	33
仲間はずれ、集団による無視	2	5	0	3	10
軽く叩かれたり、蹴られたりする	6	11	1	2	20
ひどく叩かれたり、蹴られたりする	1	1	3	0	5
金品をたかられる	2	1	2	0	5
金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする	1	2	1	0	4
いやなこと恥ずかしいこと、危険なことをされたりさせられたりする	1	2	3	0	6
パソコンや携帯電話で誹謗中傷やいやなことをされる	0	2	1	0	3
その他	1	1	0	0	2
計	23	37	17	11	88

(注) 複数回答可

## (3) いじめの解消状況

(件)

	いじめが解消しているもの	一定の解消が図られたが、継続支援中	解消に向けて取組中	他校への転学、退学等	計
小	10	0	0	1	11
中	17	6	2	0	25
高	6	1	0	0	7
特	6	4	0	0	10
計	39	11	2	1	53

# 県立高等特別支援学校設置準備委員会の意見のまとめについて

平成22年9月15日  
特別支援教育課

平成22年2月9日に県教育委員会が決定した「県立高等特別支援学校設置に向けた大枠の方針」を受けて、県立高等特別支援学校設置準備委員会を設置し、学校の規模や設置学科等について保護者代表、学校関係者等から5回にわたり意見を聴取してきましたが、その概要は以下のとおりです。

## 1 検討の経過

区分	開催期日	主な内容
第1回設置準備委員会	平成22年4月26日	・委員会開催スケジュールと検討内容 ・意向調査の実施と内容の検討 ・先進校視察について
先進校視察	平成22年5月20日 ～21日	・委員による先進校視察（東京都、埼玉県）
第2回設置準備委員会	平成22年6月9日	・設置する作業種の内容について（1回目） ・設置学科の種類と学科数について（1回目） ・寄宿舍について
第3回設置準備委員会	平成22年7月7日	・設置する作業種の内容について（2回目） ・設置学科の種類と学科数について（2回目） ・設置する学校規模について ・寄宿舍設置と規模について
第4回設置準備委員会	平成22年8月2日	・出願資格、選抜基準等について ・生徒の昼食について ・設置準備委員会の意見草案について
第5回設置準備委員会	平成22年8月25日	・意見のまとめについて

## 2 関係する調査等

項目	実施期日	内容
パブリックコメント	平成22年4月7日～5月7日	大枠の方針について
電子参画アンケート	平成22年4月8日～30日	大枠の方針について
保護者への意向調査	平成22年6月7日～17日	通学の意味、寄宿舍の利用希望等

## 3 設置準備委員会の意見の概要

「県立高等特別支援学校の設置に関する意見のまとめ（概要版）」のとおり

## 4 今後の取組

- 今後、「県立高等特別支援学校の設置に関する意見のまとめ」を参考として、設置規模、設置学科、作業種及び寄宿舍の設置について、教育委員会としての方針を検討し、最終決定する。
- 設計・工事等に係る予算要求を行う予定。



# 県立高等特別支援学校の設置に関する意見のまとめ（概要版）

県立高等特別支援学校設置準備委員会  
平成22年8月

## 1 設置規模

◎ 1学級（8名）×5学級×3学年＝120名とするのが妥当である。

### <留意事項>

- ① 他県の高等特別支援学校では開校後入学希望者が増加しているケースが多い。また、保護者への意向調査で「わからない」と回答している者の入学希望も考えられ、入学希望者が増える可能性がある。
- ② 必要な施設設備の整備については、既存施設の改修だけでなく、今後の検討によっては増改築や新築も視野に入れることが必要と考える。

## 2 設置学科及び作業種

### (1) 設置学科について

◎ 産業基礎学科及びサービス基礎学科（いずれも仮称）の2学科とするのが望ましい。また募集に当たっては、くくり募集の実施が適切である。

### <留意事項>

- ① 希望する学科、コースに偏りが出ることが予想されることから、学級編制と希望する作業種との関係について検討が必要である。
- ② 生徒の適性を見極めに際しては、前籍校から引き継いだ個別の教育支援計画を生かせるようにすることが重要である。
- ③ 進級については認定基準等の検討が必要である。
- ④ 数年後に、学科やコースの内容、所属等についてその効果を検証し、より効果的なものに改善していくことが必要と考える。

### (2) 作業種について

◎ 設置する作業種は以下の6種が妥当と考える。教育課程上の取扱いを含め、さらに内容を具体化していくことが必要である。

- |                        |            |
|------------------------|------------|
| ・ 農業（第一次産業）系           | ・ 食品衛生系    |
| ・ ビルメンテナンス（清掃・ペッドメタリ）系 | ・ 接客・サービス系 |
| ・ 流通・バックヤード系           | ・ 事務パソコン系  |

### <留意事項>

- ① 作業種については全生徒が共通して学習する内容と、類型化された学科に属する内容をさらに検討し、教育課程に位置付けることが望ましい。
- ② 企業側が求める人材として、まず挨拶や言葉遣いなどのコミュニケーション能力が掲げられている。
- ③ 学校独自に事業展開をしすぎて製品づくりが主眼となり、就労目的と異なる方向へ進まないよう留意すべきである。
- ④ 同じ作業種であっても、複数学年の生徒がその履修段階に分かれて学習ができるよう、実習室の数や広さを検討することが必要である。
- ⑤ 最初の卒業生を送り出す平成28年ごろの就労状況を見込んだ分析を継続していくことが必要である。
- ⑥ 数年後に作業種を検証し、時代や地域の変化に合わせた作業種を検討していくことが重要である。
- ⑦ 農業系は現在の求人はゼロに近い。先行投資は慎重にすべきであろうが、地域性を考えた場合、林業・水産業とともに第一次産業への就職も考えられる。県内で農業と福祉の連携による新しい取組もあり、「土」と関わる仕事はこれからの産業として今後期待できる。
- ⑧ 地域の特性を生かした作業種として食品衛生系の作業種は効果的と考える。水産加工、乳製品加工もある地域産業構造から、農業だけでなく漁業などの地域産業と連携した作業内容も考えられる。
- ⑨ 福祉施設等への就職はあくまでも補助的業務であり、福祉や介護に関する学習は必要だが、ヘルパー2級の資格取得までは必要とせず、福祉・サービス系を接客・サービス系と

するのが望ましい。

- ⑩ 事務パソコン系は、全生徒が基本的スキルを身につける教養的な取扱いとする一方で、得意な生徒に対してはその能力開発や育成に対応することも大切である。

### 3 寄宿舍

- ◎ 寄宿舍（35～40名規模）を設置することが必要と考える。
- ◎ 対象者は、原則として通学が困難な生徒のみとするのが望ましい。

<留意事項>

- ① 実際には入舎を希望する生徒がもっと多くなることも予想されることから、通学が可能かどうかの判断が重要となる。同一市町村でも公共交通機関の運行状況によって通学時間に大きな違いがある。
- ② 寄宿舍を廃止する方向で進めている都道府県もあることから、他県の寄宿舍施設の課題を把握することが必要である。
- ③ 生徒指導上の問題に留意し、生徒が安心して寄宿舍生活を送れるように、指導体制を組む必要がある。
- ④ 入舎する生徒について、男女の数が毎年変わる可能性が高いことから、寄宿舍の男女部屋数とその構造について配慮が必要である。
- ⑤ 生徒の昼食を給食とする場合は、寄宿舍の施設設備との関係について早急な検討が必要である。

### 4 受検資格・選抜基準

- ◎ 受検資格は、次のいずれにも該当するものとするのが適当である。
  - ・ 知的障がいがある者
  - ・ 入学前年度に中学校等を卒業する見込みの者
  - ・ 保護者・本人とも県内に居住する者
- ◎ 選抜基準は以下の2点を基本とすることが適当である。
  - ・ 卒業後、就労による社会自立をめざす意欲を持っていること
  - ・ 就職に向けた県立特別支援学校での学習の成果が期待できること
- ◎ 選抜検査の内容は、学力検査・適性検査及び面接とすることが適当である。

<留意事項>

- ① 上記の内容を基本とし、さらに検討を深めることが必要と考える。
- ② 選抜検査に漏れた生徒が、他の高等学校や特別支援学校を受検できるよう、受検日を早めに設定することが必要である。
- ③ 受検資格や選抜基準については、具体的な内容が決定次第、保護者・本人及び学校関係者に対し十分に周知するため、説明会や教育相談会等を行うことが必要である。
- ④ 発達障がいのある児童生徒の保護者会等と意見交換を行い、受検資格等について理解を得る必要がある。

### 5 その他

- ◎ 開校までに企業等へ教員を派遣する等、必要な教員養成を計画的に行っていくことが必要と考える。
- ◎ 教育課程や学習プログラム等の具体化を図り、開校までにソフト面についても充実したものを準備することが必要である。
- ◎ 校舎の整備に当たっては、バリアフリー化に十分配慮することが必要である。
- ◎ 生徒の昼食は給食とするのが望ましい。
- ◎ 県教育センターや地域の文教施設と連携し、生徒の接客・販売等の実践が可能な環境整備が必要である。
- ◎ 学校設置と並行して実習や就職に関係する団体等へ協力・連携の働きかけを行うことが必要である。
- ◎ 保護者等の期待も大きいことから、平成25年4月の開校が遅れることのないよう取り組むことが必要である。

平成22年度全国高等学校総合体育大会の結果について

平成22年9月15日  
スポーツ健康教育課

1. 期 間 平成22年7月28日～8月20日（駅伝・スキー等種目は別日程）
2. 開催地 沖縄県 ※定通大会（東京都・神奈川県）
3. 選手団 30競技にわたり、選手500名・監督・引率など 129名・計629名が参加
4. 入賞状況 個人で4種目、団体に7種目

区分	競技	種目	学校名・氏名	成績
個人	ボート	男子シングルスカル	米子工業・池口 開(3年)	2位
	相撲	男子個人	鳥取城北・木崎信志(2年)	3位
	弓道	男子個人	鳥取東・沢山洗也(2年)	3位
	飛び込み	高飛び込み	米子南・前谷健佑(3年)	4位
	ボート	女子シングルスカル	鳥取商業・小林加弥(3年)	5位
	空手	女子個人形	境港総合・岩佐 希(3年)	5位
	自転車		男子3000m個人追い抜き	倉吉西・八田 憲(3年)
男子スプリント			倉吉西・佐伯亮輔(1年)	8位
団体	相撲	男子団体	鳥取城北	優勝
	ボート	女子クオドルプル	米子東	4位
	水球	水球	鳥取中央育英	5位
	サッカー	男子団体	米子北	5位
	新体操	女子団体	鳥取西	6位
	飛び込み	学校対抗	米子南高校	8位
	定通制・バレーボール	男子団体	鳥取緑風	5位

参考（入賞種目数 年次比較）

種	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
開催地	高知	宮城	静岡	宮崎	栃木	富山	鳥取	山梨	京都	四国	岩手	岐阜	熊本	茨城	長崎	中国	千葉	近畿	佐賀
個人	5	6	7	13	9	8	9	9	7	11	6	9	12	10	5	5	7	12	11
団体	3	6	3	6	2	3	10	4	3	2	1	3	3	3	4	4	2	2	4
種	20		21		22														
開催地	埼玉	神奈川	奈良	神奈川	沖縄	神奈川													
個人	11	1	4		8														
団体	5		6	1	6	1													

## 平成22年度全国中学校体育大会の結果について

平成22年9月15日

スポーツ健康教育課

- 1 期 間 平成22年8月17日～8月25日(駅伝・スキー等種目は別日程)
- 2 開催地 中国ブロック全域
- 3 選手団 10競技に選手128名(32校)が参加
- 4 入賞一覧

区分	競技名	男女	種 目	学校名 氏名(学年)	成績
個人	水泳競技	女	高飛び込み	弓ヶ浜中学校 宇田恵理子(2年)	2位
個人	水泳競技	女	板飛び込み	弓ヶ浜中学校 宇田恵理子(2年)	7位
個人	陸上競技	男	110m障害	鴨川中学校 渡辺 孝道(3年)	7位
個人	ソフトテニス	男	男子個人(ダブルス)	江府中学校 坪倉 裕太(3年) 加藤 敬三(3年)	5位
団体	相撲競技	男	団 体	鳥取西中学校	5位

### 参考(入賞数の推移)

年度	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
個人	4	4	7	4	3	6	4	2	1	2	0	1	4
団体	0	1	1	1	2	2	2	1	1	1	2	3	1

# 第65回国民体育大会中国ブロック大会の結果について

平成22年9月15日

スポーツ健康教育課

1. 期 間 平成22年5月23日(日)～8月29日(日)

2. 場 所 鳥取県一円 (一部県外開催競技あり)

3. 成 績 (下記表の通り)

No.1

No.	競 技	種 別	種 目	全国枠	中国枠	鳥 取	島 根	岡 山	広 島	山 口	第64回 本大会出場県
1	水 泳 1(0)	少年男子	水 球	16	2	①	不参加	②	3	4	広
		少年女子	シンクロナイズドスイミング	20	3※1	不参加	①	不参加	③	不参加	鳥・広・高
2	サ ッ カ ー 1(0)	成 年 男 子		16	2	①	5	3	4	②	山
		女 子		16	2	4	5	①	②	3	岡
		少 年 男 子		24	3	4	③	②	①	5	広・岡
3	テ ニ ス 2(0)	成 年 男 子		32	3	①	5	4	②	③	広・島・山
		成 年 女 子		32	4	②	5	③	④	①	広・岡・山
4	ボ ー ト 7(6)	成年男子	舵手つきフォア	20	2	②	3	5	4	①	広・山
			シングルスカル	20	3	4	①	②	レーン侵害	③	岡・鳥・島
		成年女子	舵手つきクォドルブル	20	2	4	3	5	①	②	広・島・鳥
			ダブルスカル	15	2	①	②	5	4	3	鳥・島
		少年男子	シングルスカル	20	3	②	③	4	①	5	山・島
			舵手つきクォドルブル	20	3	4	①	③	②	5	岡・広
			ダブルスカル	20	2	4	②	3	①	5	広・島
		少年女子	シングルスカル	20	2	①	4	3	②	失格	岡・鳥
			舵手つきクォドルブル	20	2	②	4	①	5	3	岡・広
			ダブルスカル	15	1	①	レーン侵害	2	3	4	鳥
5	ホ ッ ケ ー 0(0)	成 年 男 子		8	1	2	①	3	3	5	島
		成 年 女 子		8	1	3	2	3	①	5	広
		少 年 男 子		10	1	2	①	3	5	3	鳥
		少 年 女 子		10	1	2	①	3	5	3	鳥
6	ボ ク シ ン グ 0(0)	成 年 男 子		25	2	3	5	②	①	4	岡・広
		少 年 男 子		23	2	3	5	①	②	4	広・岡
7	バ レ ー ボ ー ル 0(0)	成年男子	6 人 制	10	1	5	3	3	①	2	広
			9 人 制	10	1	3	5	2	3	①	山
		成年女子	6 人 制	10	1	5	3	①	3	2	岡
			9 人 制	10	1	3	2	3	①	5	広
		少 年 男 子		24	2	5	3	4	②	①	広・山
少 年 女 子		24	2	5	4	②	3	①	山・岡		
8	体 操 2(1)	成年男子	競 技	17	2	4	5	①	3	②	岡・広
		成年女子	競 技	15	1	不参加	3	2	①	不参加	広
		少年男子	競 技	26	3	②	5	①	③	4	岡・広・島
		少年女子	新 体 操	22	2	①	3	②	4	5	鳥・岡
9	バスケットボール 0(0)	成 年 男 子		12	2	5	4	①	3	②	山
		成 年 女 子		12	2	5	4	3	②	①	少男:山
		少 年 女 子		12	2	3	5	4	②	①	岡
10	セ ー リ ン グ	成年女子	国体ウインドサーフィン級	今年度より実施しない							岡・山
		少年女子	セーリングスピリッツ級								鳥・岡・山
11	ウエイトリフティング 0(1)	成 年 男 子		0~2名	5	②(2)	①(2)	③(2)	④(1)	岡・広・鳥・島	
12	ハ ン ド ボ ー ル 0(0)	成 年 男 子		16	1	3	5	2	①	3	広・山
		成 年 女 子		19	2	4	5	3	①	②	広
		少 年 男 子		19	2	4	5	②	3	①	山
		少 年 女 子		16	1	2	3	5	3	①	岡・山
13	ソ フ ト テ ニ ス 0(0)	成 年 男 子		16	2	5	4	3	①	②	広・山
		成 年 女 子		16	2	5	4	①	②	3	山・広
		少 年 男 子		16	2	4	5	①	②	3	少女:広・岡

No.	競 技	種 別	種 目	全国枠	中国枠	鳥 取	島 根	岡 山	広 島	山 口	第64回 本大会出場県			
14	卓 球 0 (0)	成 年 男 子	成 年 男 子	32	3	4	5	③	②	①	山・広			
			成 年 女 子	16	2	5	3	4	②	①	広・岡・島			
			少 年 男 子	20	2	5	3	②	4	①	少女:岡・島			
15	軟 式 野 球 0 (0)	成 年 男 子	32	3	4	③	5	①	①	島・岡・山・広				
16	馬 術 9 (9)	成 年 男 子	標 準 障 害 飛 越	26	中国 プロ テック の 割 り 当 て は 26 選 手 18 馬 匹	3				○	○	鳥・広・山		
			ス ピードアンドハンディネス	26		3					○		岡・広・山	
			ダ ー ビー	26		3	○	○				○	鳥・島・山	
			国 体 総 合 馬 術	26		3	○				○	○	岡・広・山	
			六 段 障 害 飛 越	26		3	○				○	○	鳥・広・山	
			ト ッ プ ス コ ア	26		3	○				○	○	鳥・広・山	
		成 年 女 子	セ ン ト ジョージ賞典馬場馬術	14		1				○				岡
			自 由 演 技 馬 場 馬 術	14		1				○				岡
			標 準 障 害 飛 越	26		3				○	○	○	鳥・広・山	
			二 段 階 障 害 飛 越	26		3	○				○	○	広・山	
			ト ッ プ ス コ ア	26		3	○				○	○	鳥・広・山	
			ダ ー ビー	26		3	○			○	○	○	鳥・山	
		少 年	セ ン ト ジョージ賞典馬場馬術	14		1							○	岡
			自 由 演 技 馬 場 馬 術	14		1							○	岡
			標 準 障 害 飛 越	26		3					○	○	鳥・広・山	
			ス ピードアンドハンディネス	26		3	○				○	○	広・山	
			リ レー	26		3					○	○	広・山	
			ダ ー ビー	26		3					○	○	広・山	
17	フェンシング 0 (0)	成 年 女 子	成 年 女 子	18	1	5	①	3	4	2	山・島			
			少 年 男 子	18	1	3	①	4	5	2	山・島			
			少 年 女 子	18	2	4	②	3	5	①	山			
		18	柔 道 0 (0)	成 年 女 子	成 年 女 子	16	2	5	4	①	②	3	山	
					少 年 男 子	18	1	5	3	4	①	2	広	
					少 年 女 子	18	1	5	3	4	①	2	山	
19	ソフトボール 0 (0)	成 年 男 子	成 年 男 子	13	1	5	3	2	①	3	広			
			成 年 女 子	13	1	3	①	2	5	3	島・岡			
		少 年 男 子	少 年 男 子	13	1	5	2	3	①	3	岡			
			少 年 女 子	13	1	3	3	2	①	5	山			
20	バドミントン 2 (1)	成 年 女 子	成 年 女 子	16	2	①	②	5	3	4	鳥・島・広			
			少 年 男 子	16	2	3	4	①	5	②	成男:岡・山			
			少 年 女 子	32	3	①	②	③	4	5	島・岡			
21	弓 道 0 (1)	成 年 男 子	成 年 男 子	30	3	4	5	①	③	②	広・岡・山			
			成 年 女 子	24	2	4	3	②	5	①	山・鳥			
			少 年 男 子	19	2	4	②	5	①	3	広・岡			
			少 年 女 子	19	2	4	3	①	4	②	広・山			
22	ライフル射撃 4 (1)	成 年 男 子	5 0 m 3 × 2 0 M	22	2	②	3	①	5	4	山・島			
			5 0 m P 6 0 M	36	3	③	①	5	4	②	島・岡・広			
			A P 6 0 M	16	2	5	4	①	②	3	岡・広			
		成 年 女 子	5 0 m 3 × 2 0 W	22	2	5	①	3	4	②	島・岡			
			A P 4 0 W	10	1	4	不参加	3	2	①	岡			
			B R S 4 0 W	22	2	4	不参加	①	②	3	広・岡			
		少 年 男 子	1 0 m S 6 0 J M	34	3	③	②	不参加	不参加	①	岡・島・広・鳥			
			B R S 6 0 J M	22	2	4	5	②	①	3	広・岡			
少 年 女 子	1 0 m S 4 0 J W	34	4	③	不参加	不参加	②	①	島・山・岡・広					
	B R S 4 0 J W	22	2	5	4	②	①	3	岡・広					

No.	競 技	種 別	種 目	全国枠	中国枠	鳥 取	島 根	岡 山	広 島	山 口	第64回 本大会出場県	
23	剣 道 0(0)	成 年 女 子		16	1	4	5	①	3	2	岡	
		少 年 男 子		16	1	5	2	①	3	4	岡	
		少 年 女 子		16	1	5	4	①	2	3	岡	
24	ラ グ ビ ー フ ッ ト ボ ー ル 0(0)	成 年 男 子		8	1※1	3	5	3	①	2	広	
		少 年 男 子		15	2	5	①	3	②	3	山	
25	山 岳 1(2)	成 年 女 子		18	1	4	5	3	2	①	山・岡	
		少 年 男 子		20	2	3	5	①	4	②	鳥・岡	
		少 年 女 子		18	2	②	5	3	3	①	山・鳥	
26	カ ヌ ー 5(6)	成年男子	スプリント カヤックシングル	25	2	5	②	3	4	①	鳥・岡・広	
			スプリント カナディアンシングル	25	2	①	3	①	4	②	鳥・島・山	
		成年女子	スプリント カヤックシングル	20	2	5	3	②	4	①	山・岡	
			スプリント カヤックペア	30	3	①	②	③	4	①	転覆 鳥・島・山	
		少年男子	スプリント カヤックペア	12	1	3	2	4	5	①	山	
			スプリント カナディアンシングル	27	3	①	②	4	5	③	山・鳥・岡	
			スプリント カナディアンペア	14	1	3	2	不参加	①	転覆	広	
		少年女子	スプリント カヤックフオア	0	0	未開催						岡
			スプリント カヤックシングル	25	2	②	①	5	3	4	鳥・島・広	
			スプリント カヤックペア	12	1	転覆	3	①	不参加	2	広	
		成年男子	スプリント カヤックフオア	12	1	不参加	①	不参加	2	不参加	未開催	
			スラローム カヤックシングル	25	3	4	③	②	5	①	鳥・山・岡	
成年女子	ワイルドウォーター カヤックシングル	20	2	3	5	②	4	①	鳥・岡			
	スラローム カヤックシングル	20	2	②	3	不参加	4	①	鳥・島			
		ワイルドウォーター カヤックシングル	18	2	3	4	①	5	②	岡・鳥		
27	ア ー チェ リ ー 1(1)	成 年 男 子		24	2	4	5	3	①	②	広・山・岡	
		成 年 女 子		24	3	③	5	②	①	4	広・山	
		少 年 男 子		14	1	4	5	①	2	3	広	
		少 年 女 子		14	1	3	不参加	4	①	2	鳥	
28	空 手 道 2(2)	成年男子	形	31	2	3・9	5・9	②・5	5・5	①・3	岡・広	
		成年女子	形	31	2	①・9	5・9	5・5	②・3	3・5	鳥・広	
		少年男子	形	31	2	5・5	4・9	①・2	③・5	5・9	岡・山	
		少年女子	形	31	2	①・5	5・9	②・5	3・9	3・5	鳥・岡	
29	銃 剣 道 0(0)	少 年 男 子		13	1	4	2	①	5	3	岡	
30	ク レ ー 射 撃 1(1)	成 年 ( ス キ ー ト )		32	3	①	5	③	②	4	岡・広・鳥	
31	な ぎ な た 0(0)	少年女子	試 合	32	3	5	②	③	4	①	岡・山・鳥	
32	ボ ウ リ ン グ 1(1)	成 年 男 子		28	3	5	③	①	②	4	広・岡・鳥	
		成 年 女 子		24	3	4	5	①	②	③	岡・広・鳥	
		少 年 男 子		24	2	4	不参加	①	①	3	広・岡	
		少 年 女 子		23	3	②	不参加	③	①	4	広・岡・鳥	
33	ゴ ル フ 0(0)	少 年 男 子		28	3	4	5	①	②	③	広・山・岡	
国民体育大会出場権(種別種目数)獲得数合計					270 ※2	39	32	62	71	66		
[第64回大会の獲得枠]					278	34	37	74	72	61		

## 〔説 明〕

- ※ 県名の下の数字が順位。○で囲んだものは国体出場権獲得を示す。  
 ※ 昨年の本大会出場県は、ブロック大会の順位順に記載。※馬術競技は除く  
 ※ 競技名の下の数字は本件の本国体出場権獲得数を表す。カッコ内は昨年度の数を表す。  
 ※ ウェイトリフティングの( )は、出場権獲得者数  
 ※1 シンクロナイズドスイミング(少女)・ラグビーフットボール(成男)は中四国枠  
     2位:高知県(シンクロナイズドスイミング)  
     1位:広島県(ラグビーフットボール)  
 ※2 中国枠は、本来最大279枠あるのだが、中四国枠や、中国ブロック大会不参加県があり枠が減少  
     (シンクロ1、馬術7、ライフル1)